

気配切りは音源定位能力を向上させるか？

視覚情報の遮断による短期トレーニング効果の検証

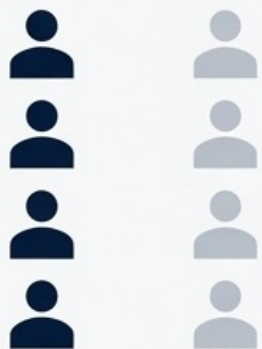
目的と仮説



- ・視覚障害者の優れた「非視覚的感覚」にヒントを得た検証。
- ・晴眼者が視覚を完全に遮断した状態での短期トレーニング（気配切り）を通じて、「音源定位能力」を迅速に獲得・向上できるかをテストする。

実験メソッド

トレーニング群 (気配切り実施) - 4名
対照群 (未実施) - 4名



1週間以内 3日間の実施 1日90分
(4人組当たり6試合/30分を3セット)

結果マトリックス

	トレーニング群 (気配切り実施)	対照群 (未実施)
初期能力：高	変化なし	変化なし
初期能力：低	大幅な向上 <small>正確度UP・方向の間違い消失</small>	変化なし

➡ 気配切りの効果は、元々の音源定位能力が「低い」参加者にのみ劇的に表れる。

結論とインサイト



方向感覚の補正には極めて有効:

初期能力が低い参加者でも、相手の「気配」を読むことで方向の誤認を完全に無くすことができた。



距離感の把握には限界がある:

方向感覚は向上するが、微細な距離感を掴むことは難しく、正しい方向を向いていても剣が届かない「空振り」が多発した。音源定位における「方向」と「距離」の習得難易度の違いが浮き彫りになった。